

沖縄県外来種対策行動計画に基づく
アメリカハマグルマ 防除計画

令和2年3月

沖 縄 県

1 背景と目的

アメリカハマグルマは、アメリカ大陸原産のキク科の植物で、法面などの緑化用として県内各地に導入され、公園、農耕地、林道脇、河川、湿地等のさまざまな環境に侵入・定着しています。繁殖力が非常に旺盛で、他の植物が生育できないほど繁茂するため、生態系への影響が懸念されています。

沖縄県では、沖縄県内に定着しており、生態系への影響が大きいことから重点的に駆除等の防除を実施する必要がある外来種を「重点対策種」として指定しています。アメリカハマグルマは在来植物への被圧等の影響が大きいことから、重点対策種に指定されています。本防除計画は、アメリカハマグルマによる生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものです。

2 概要

(1) 和名等

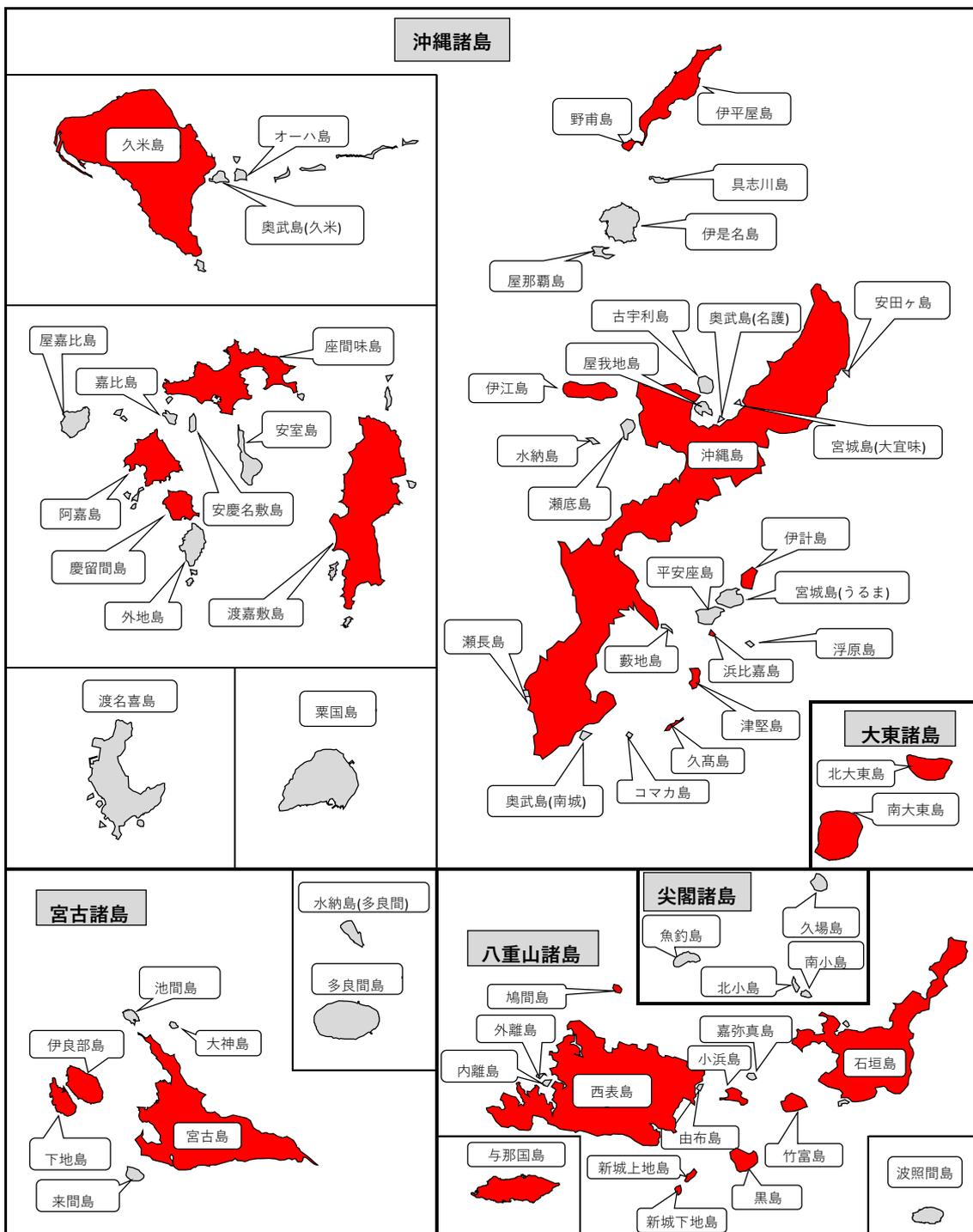
キク科

アメリカハマグルマ (学名 *Wedelia trilobata*)

(2) 分布

原産地：フロリダ南部～熱帯アメリカ

県内の分布確認状況：県内各地（沖縄島、伊計島、津堅島、浜比嘉島、伊江島、久高島、渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、慶留間島、久米島、宮古島、伊良部島、下地島、石垣島、鳩間島、新城島、黒島、西表島、与那国島）



アメリカハマグルマの生育が確認されている島

赤色で塗った島は生育が確認されている島を示す。

(3) 形態・生態

キク科の多年生草本植物です。葉の長さは 5~10cm、幅 2~5cm で、表面には剛毛が生えておりザラザラしています。4cm ほどの黄色い花が咲きます。つる状に匍

匍して接地部から根を出して伸び、長さ 3~5m になります。繁殖力が非常に強く、他の植物が全く生えないほど繁茂することがあります。日当たりの良い場所で大きな群落を形成します。



よく似た在来植物

アメリカハマグルマに似た在来種としてキダチハマグルマ・クマノギク・ハマグルマ・オオハマグルマがあります。これらの植物はみなキク科植物で、アメリカハマグルマとよく似た黄色い花をつけます。花はよく似ていますが、よく見ると葉っぱの形がそれぞれ違います。同じ場所での生育は確認されていませんが、交雑が懸念されています。

ハマグルマ アメリカハマグルマ クマノギク キダチハマグルマ オオハマグルマ

アメリカハマグルマの見分け方

引用：緊急対策外来種アメリカハマグルマ（パンフレット）（環境省那覇自然環境事務所）

3 指定の状況

特定外来生物	—
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	緊急対策外来種
日本の侵略的外来種ワースト 100	—
世界の侵略的外来種ワースト 100	○

4 生態系等への影響

繁殖力が強く、他の植物の生育環境を奪って繁茂します。匍匐して伸びることから、他の植物に覆いかぶさることもあります。また、在来のハマグルマやキダチハマグルマとの交雑も心配されています。



他の植物に覆いかぶさる



他の植物が生育できないほど繁茂する

5 目標

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 B 重要区域からの排除** (希少植物生育地)

◎アメリカハマグルマの被圧による希少な在来植物の減少防止

アメリカハマグルマはすでに県内各地のさまざまな環境に侵入・定着しており、すべてを防除することは現実的ではありません。このため、湿地や溪流、海岸沿いなど希少な植物が生育する場所において、アメリカハマグルマの影響を軽減することを目標とします。

6 対策の方針

(1) 希少な在来植物の生育地に侵入し、影響が著しい場合の除去

湿地や溪流、海岸沿いなどにアメリカハマグルマが侵入し、希少な植物に影響を及ぼしている事例が確認されています。これらの場所において、アメリカハマグルマの除去を行います。除去は「8. 防除方法」に従って行います。



影響を受けやすい希少な在来植物の生育地の例（左：溪流 右：湿地）

(2) 県民・事業者に野外への植栽や遺棄を行わないための普及啓発

アメリカハマグルマの拡散を防ぐため、野外への植栽や遺棄を行わないよう県民に周知することが必要です。アメリカハマグルマの危険性と注意点を周知するためのパンフレットの配布等を行います。

目標カテゴリーB：重要区域からの排除（希少植物生育地）

目標：アメリカハマグルマの被圧による希少な在来植物の減少防止

対策の方針	実施項目	期間	実施地域	実施内容
希少な在来植物の生育地に侵入し、影響が著しい場合の除去	侵入を警戒する生物多様性の保全上重要な地域の設定	短期	沖縄県内	影響を受けやすい希少な在来植物の生育地（溪流、海岸沿い、湿地）をリストアップし、【警戒対象地】として設定する。
	警戒対象地におけるモニタリング	短期	沖縄県内	警戒対象地において、侵入状況を調査する。
		長期	沖縄県内	警戒対象地において定期的なモニタリングを行う。
	警戒対象地における除去	短期	沖縄県内	調査により、侵入が確認された場合は除去を行う。
長期		沖縄県内	定期モニタリングにより、侵入が確認された場合は除去を行う。	
県民・事業者に野外への植栽や遺棄を行わないための普及啓発	危険性と注意点の周知	短期～長期	沖縄県内	県民・事業者へのパンフレットの配布、住民参加型の除去作業等により、危険性と注意点を周知する。
	植栽や遺棄の制限	長期	沖縄県内	条例等による野外への植栽・遺棄の制限について検討する。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

7 実施体制

効果的かつ効率的な対策のため、以下のような体制を目指し、関係機関と連携します。

- 侵入状況の調査およびモニタリング：沖縄県環境部、(環境省)
- 除去：沖縄県環境部、(環境省、市町村)
- 普及啓発：沖縄県環境部、(環境省、市町村)

8 防除方法

(1) 除去

アメリカハマグルマは根や茎から再生するため、丁寧に株全体を引き抜くことが必要です。また、全体的な除去を行った後も取り残した根や茎から再生した株を定期的に抜き取るのが重要です。沖縄島での除去試験では、2ヶ月に一度の頻度で抜き取りを1年間行った結果、再生した株は見られなくなりました。



根・茎ごと引き抜きます



抜き取りながら袋につめていきます

(2) 処分

抜き取ったアメリカハマグルマは一定期間は枯れないため、放置したり別の場所に遺棄すると分布拡大を助長する恐れがあります。このため、ビニール袋などに入れて運搬し、焼却等の適切な処分を行うことが必要です、



1 ヶ月後に地中の根・茎から再生した株 ビニール袋に入れて2 ヶ月後の様子

- ※ 除去作業の際は、草むらの中のハブやハチなど危険な生き物に注意が必要です。
- ※ 希少植物の生育地での除去の際は、在来種を踏みつけたり誤って引き抜かないよう注意が必要です。

9 防除事例の紹介

(1) 与那国島 久部良バリ

与那国島では、与那国町教育委員会と「与那国いとなみネットワーク」による外来植物対策が行われています。アメリカハマグルマの除去を行っている久部良バリは国指定の名勝に指定されている海岸地帯で、ヤエヤマズコウジュやシママンネングサ等の絶滅危惧種の生育地です。

5年ほど前からアメリカハマグルマが侵入・拡大していたことから、2014年12月に関係者やボランティアの約20名により手作業での抜き取りを行い、4時間で軽トラック5台分を除去しました。その後、取り残しから再生したアメリカハマグルマを時折除去しています。

この取り組みにより、翌年の4月にはシママンネングサやヤエヤマズコウジュが群落を形成するまでに再生しました。



アメリカハマグルマが繁茂



除去の様子



除去後の様子



シママンネングサが再生

(与那国町教育委員会提供資料)

(2) 沖縄島 新川川

沖縄県は、沖縄島北部（東村）の山中を流れる新川川において、侵入したアメリカハマグルマを除去する試験を実施しました。

9名の作業員により、試験対象区間約200mのアメリカハマグルマの除去を行いました。残った茎や根から再生するため、除去は手で抜き取る方法で行いました。2日間の除去作業によりビニール袋196袋、1292kgを除去しました。

一斉除去の後は2ヶ月に1回の頻度で取り残しと再生した株の除去を行いました。残った地下茎からの発芽、上流から流れ着いた株の定着が見られ、毎回8kg～9kgを除去しましたが、一斉除去から約1年後には1kg程度に減少しました。

一斉除去から1年後に実施した調査では、アメリカハマグルマの除去により溪流性の在来植物の回復が確認されました。



除去前



除去後



被圧されていたアキカサスゲ（在来種）が分布を拡大（左：除去前 右：除去から1年後）

(3) 西表島 干立

環境省は、西表島の放棄水田において、侵入したアメリカハマグルマを除去する試験を実施しています。

年4回程度の抜き取り作業（12人×半日）と重機による除去（6日）を実施しました。この作業により、繁茂していたアメリカハマグルマはわずかに株が見られる程度になりました。

その後、アメリカハマグルマの再侵入・再生の状況について、モニタリングを実施しています。



手作業による除去の様子



重機による除去の様子

(環境省提供資料)

10 防除計画の見直し

当該防除計画は3年目に中間評価を行い、5年目に見直しを行います。なお、対策上必要があると認められる場合は、随時見直しを行うものとします。